

住まいに関する市民アンケート調査報告書【概要】

資料 - 2

1. 配布数及び回収数

【配布数】 6,000通 (実施期間 H28.8.10~8.31)

【回収数】 2,042通

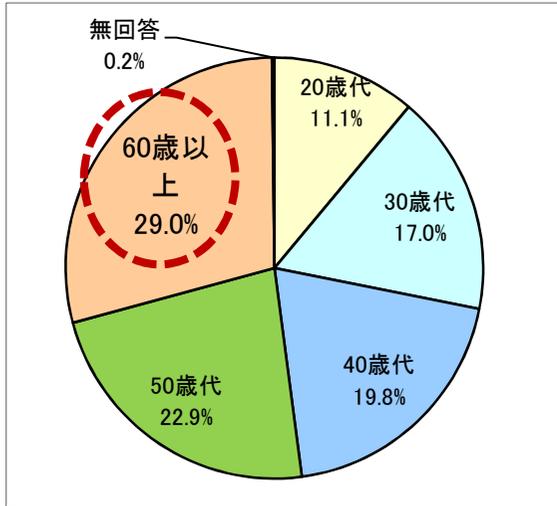
【回収率】 34.0%

地域区分	地区	配布数	回収数	回収率
長野市Ⅰ	第一～第五地区	500	241	48.2%
長野市Ⅱ	芹田、古牧、三輪、吉田	1,371	384	28.0%
長野市Ⅲ	古里、柳原、朝陽、大豆島、 浅川、若槻、長沼、安茂里、豊野	1,719	560	32.6%
長野市Ⅳ	篠ノ井、川中島、更北	1,630	552	33.9%
長野市Ⅴ	松代、若穂	480	156	32.5%
長野市Ⅵ	小田切、芋井、七二会、信更、戸隠、鬼無里 大岡、信州新町、中条	300	117	39.0%
	無回答	-	32	-
	合計	6,000	2,042	34.0%

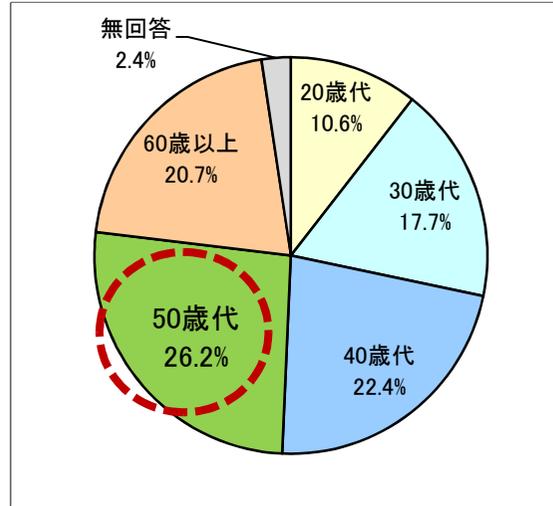
回収率が高い地域
長野市Ⅰ地域 約48%
長野市Ⅵ地域 約39%

2. 回答者の属性

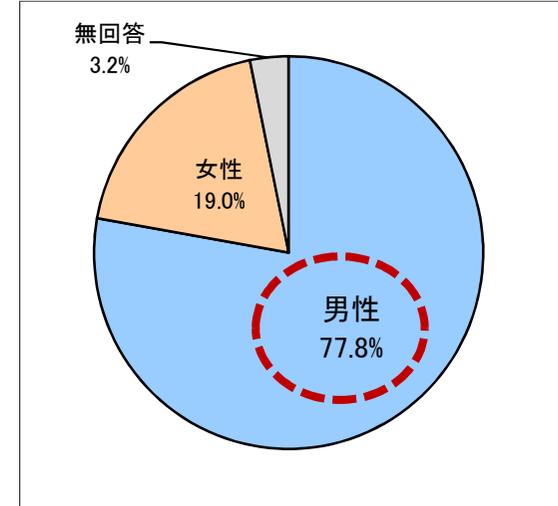
【回答者の年代】
60歳以上が29%と最も多い



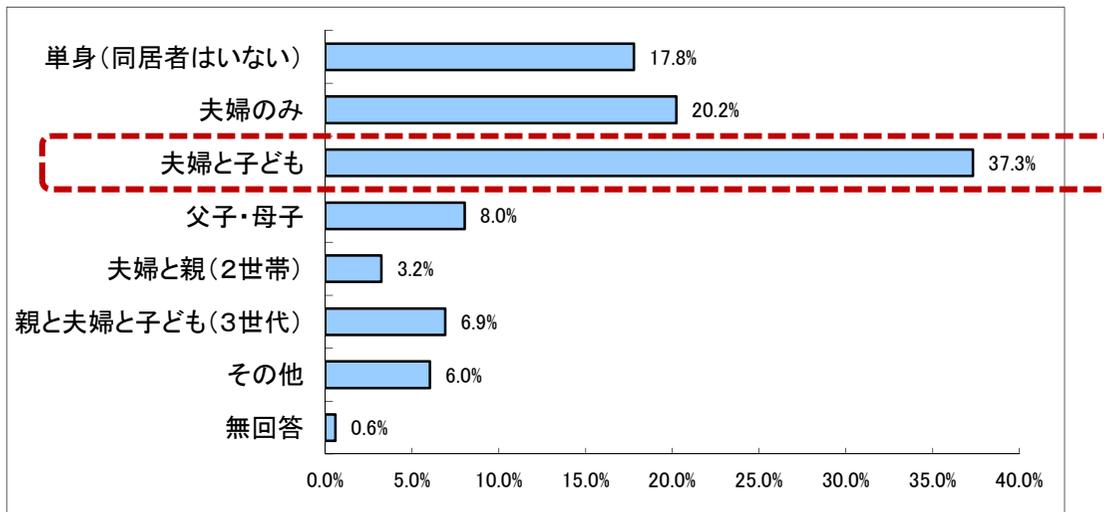
【主な働き手の年代】
50歳代が約26%と最も多い



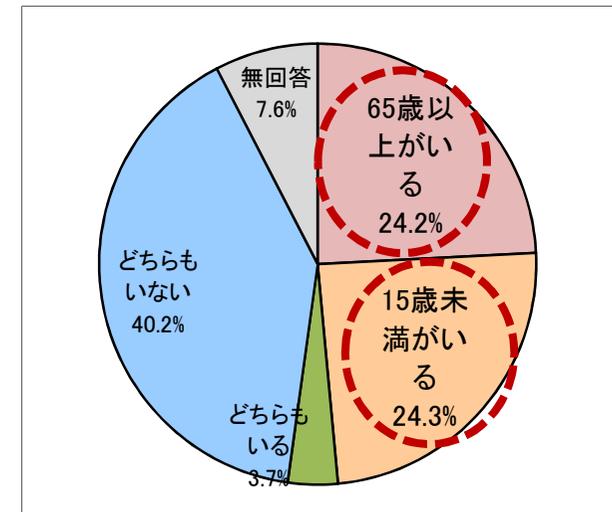
【主な働き手の性別】
男性が約78%と多数を占める



【家族構成】
夫婦と子どもの核家族世帯が最も多く約37%
夫婦のみ世帯が約20%、単身世帯が約18%



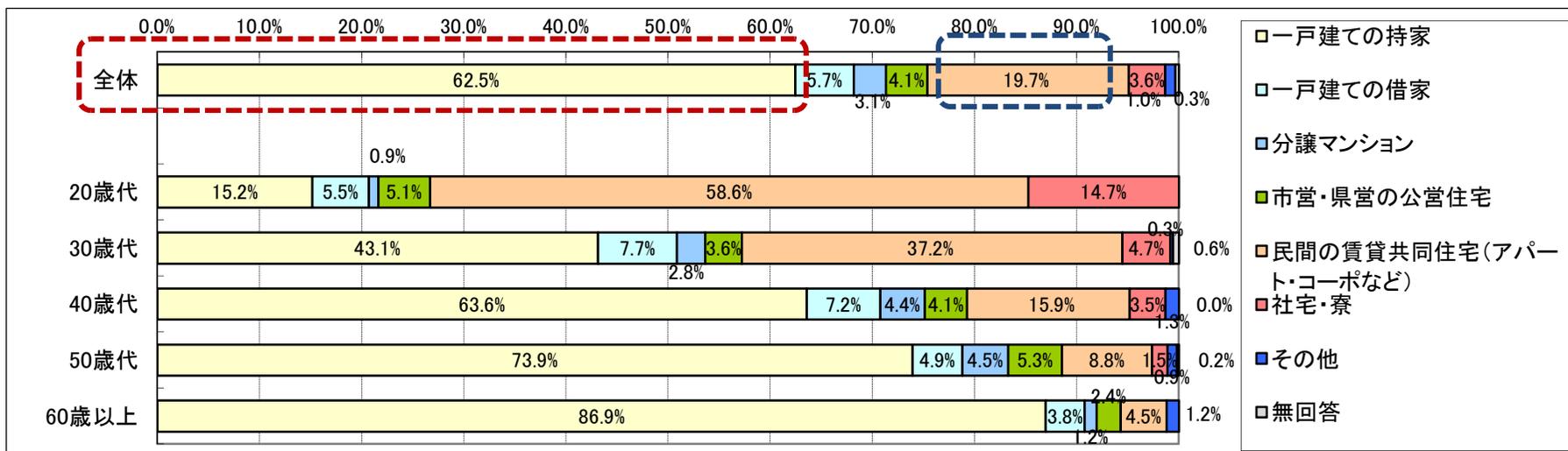
【子どもと高齢者】
15歳未満の子どもがいる約24%
65歳以上の高齢者がいる約24%



3. 住宅について

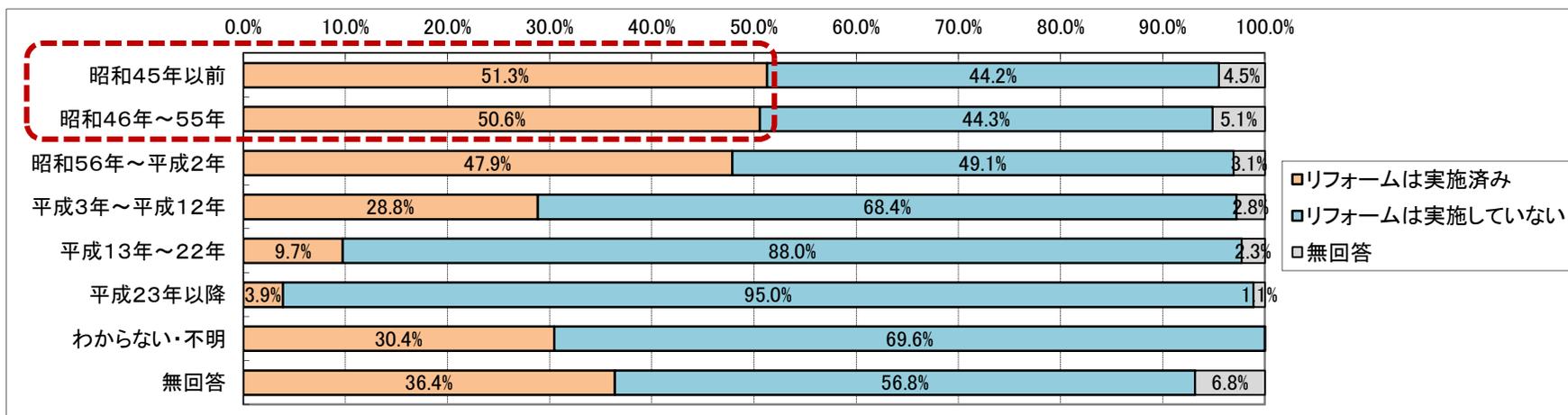
【住宅種別】

「一戸建ての持家」が62.5%、「民間の賃貸共同住宅」が19.7%
30～40歳代から持家取得が増加（40歳代から持家率と借家率が反転）



【持家のリフォーム実施状況】

平成2年（築25年以上）までに建築された持家のリフォーム実施率は約50%



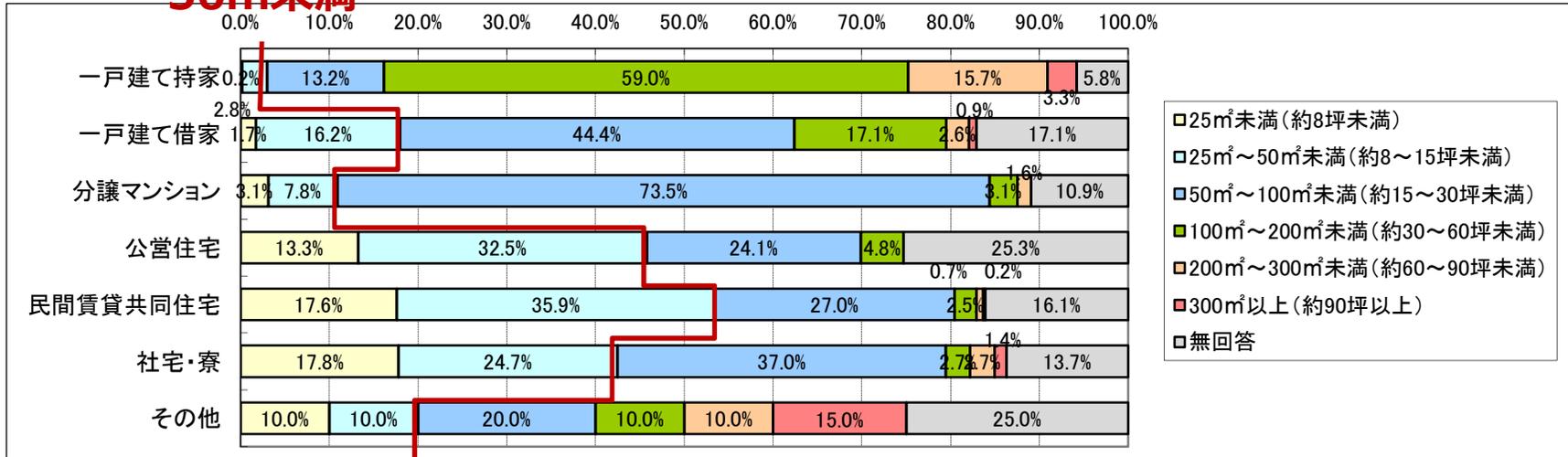
3. 住宅について

【住宅の広さ】

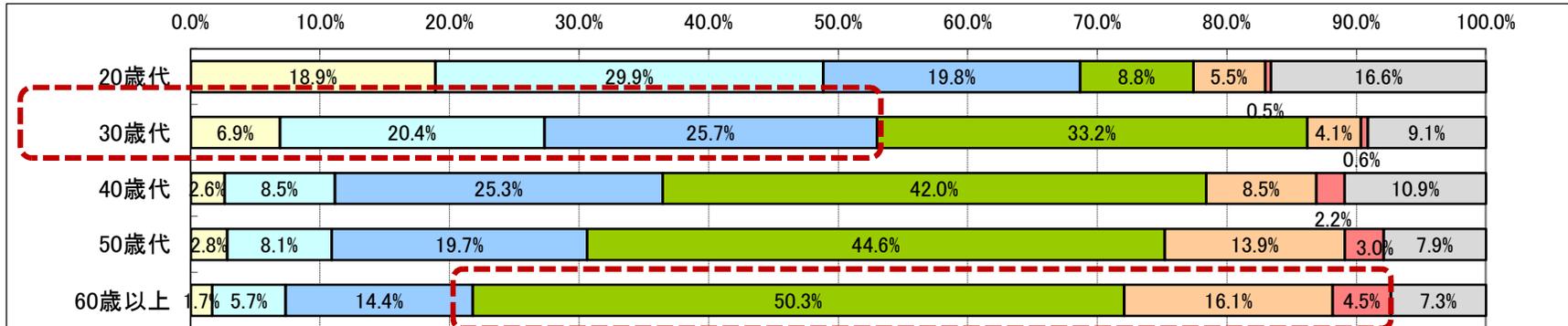
民間賃貸共同住宅や公営住宅は一戸建て住宅に比べ狭い
子育て世帯が居住する住宅は狭い

50m²未満

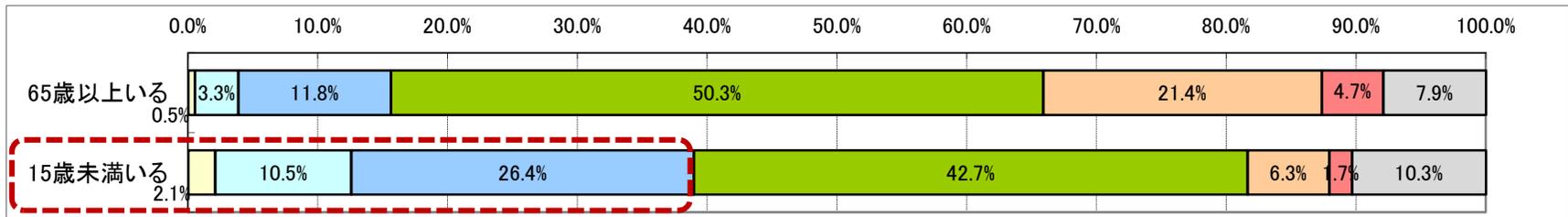
住宅種別



世帯主の年代別



家族員別



3. 住宅について

【住宅の建築年】

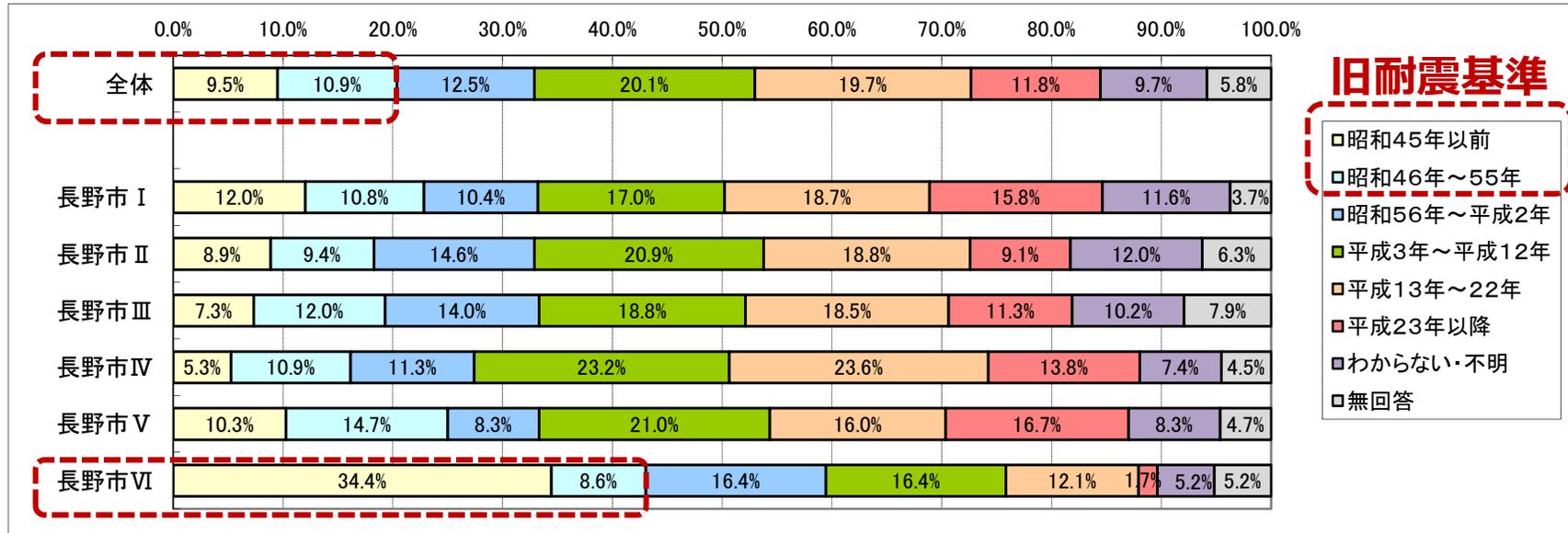
建築基準法改正前（旧耐震基準）に建築された住宅は20.4%

長野市VIでは旧耐震基準で建築された住宅が43%

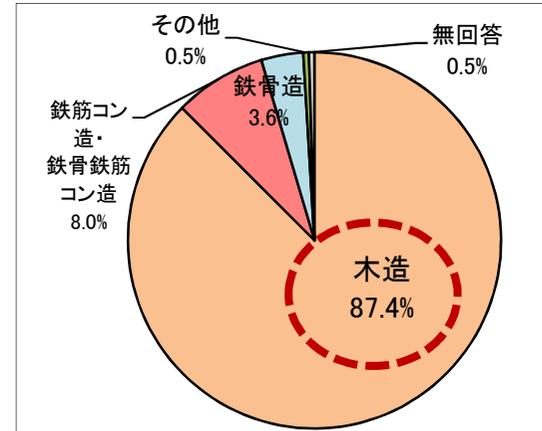
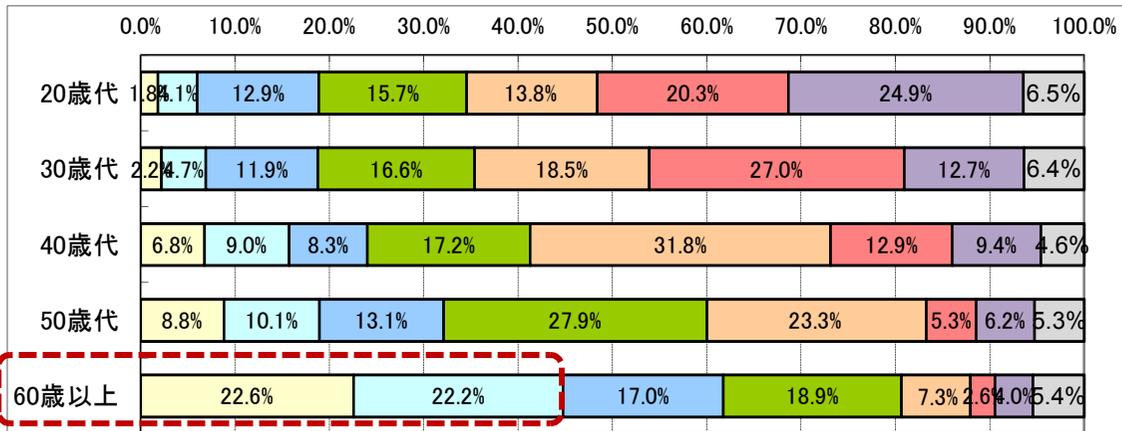
世帯主が60歳以上では約45%が旧耐震基準で建築された住宅に居住

旧耐震基準で建築された住宅の約90%は木造

地域別



世帯主の年代別

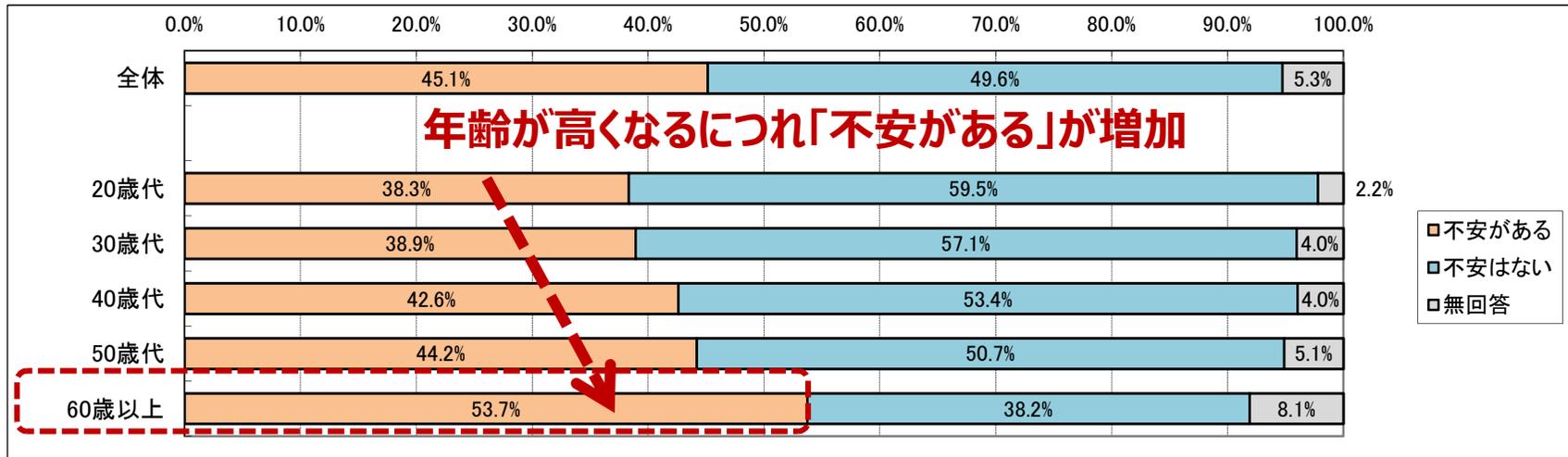


4. 住まいの安心・安全

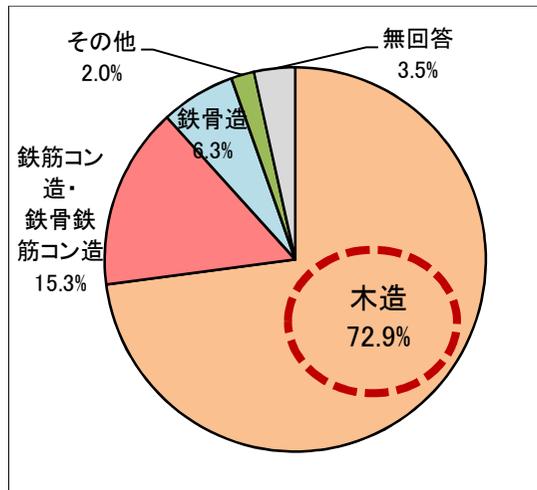
【住宅の耐震性】

60歳以上では住宅の耐震性に不安を感じている方が約54%
耐震性に不安を感じる方の住宅は、約73%が木造住宅

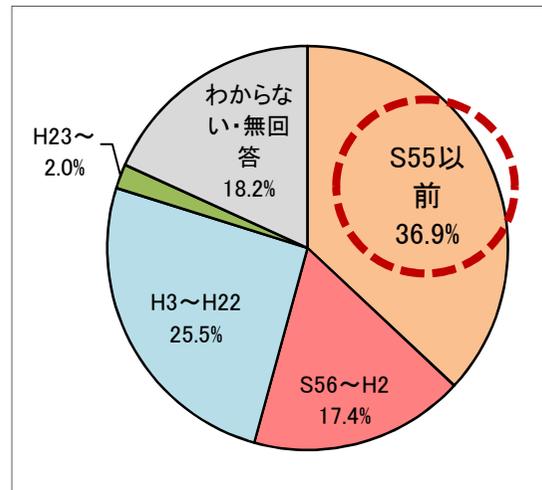
回答者の年代別



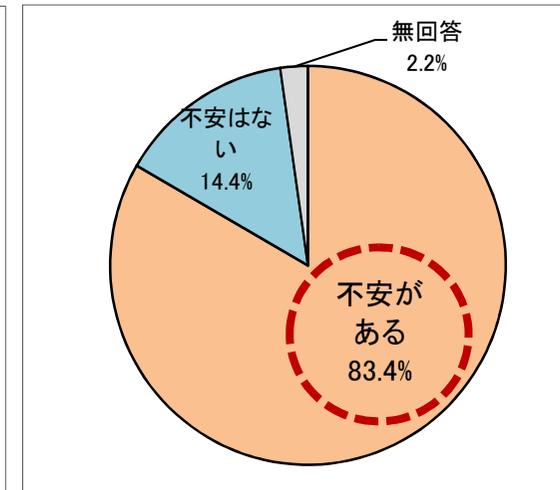
不安を感じている方の住宅の構造



不安を感じている方の住宅の建築年



旧耐震基準の住宅に住む方の住宅の耐震性の不安感

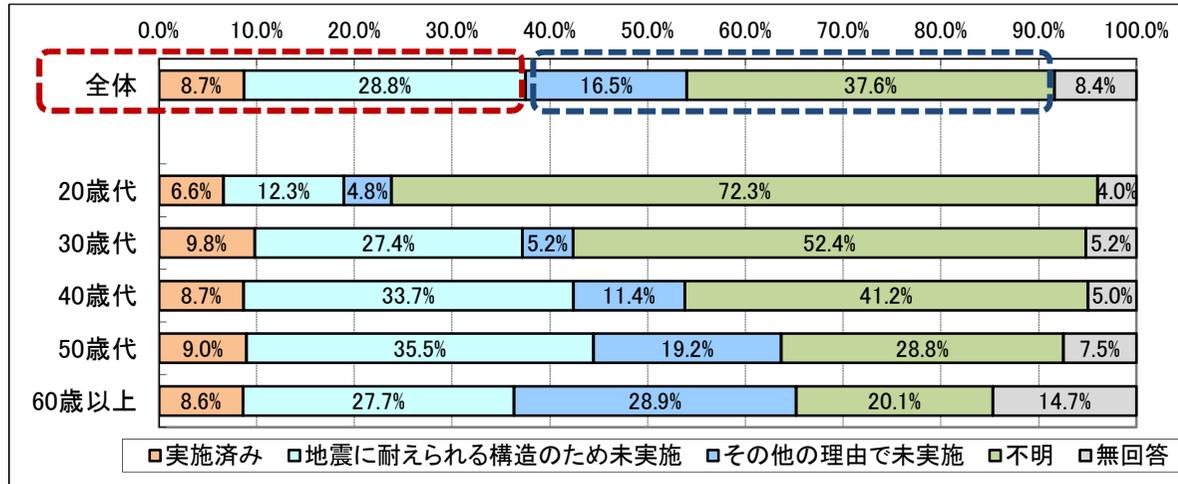


4. 住まいの安心・安全

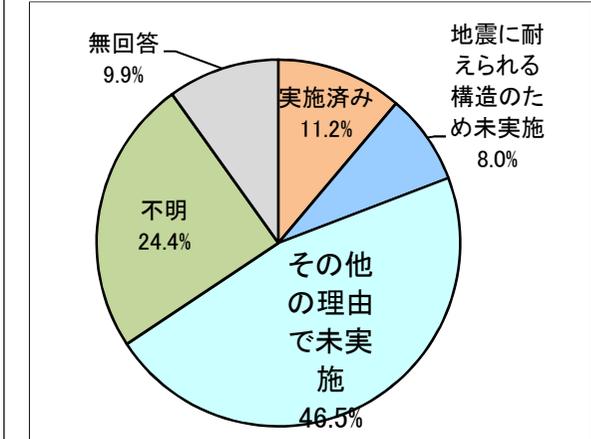
【住宅の耐震診断実施状況】

居住する住宅の耐震性を確認しているのは約38%、確認していないは約54%
耐震診断に対する考え方は年代によって異なる

回答者の年代別



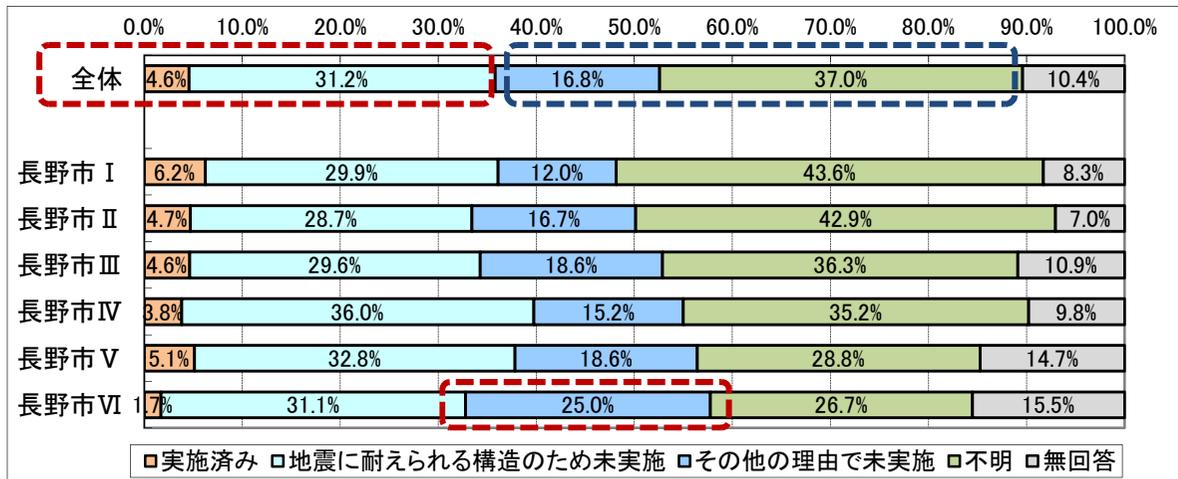
旧耐震基準の一戸建て持家



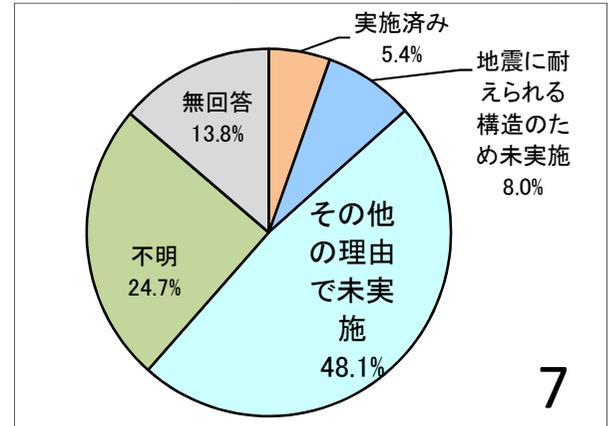
【住宅の耐震改修実施状況】

居住する住宅の耐震性を確保しているのは約36%、確保していないは約54%
長野市VIでは、耐震改修の未実施が25%であり、他地域に比べ高い

地域別



旧耐震基準の一戸建て持家

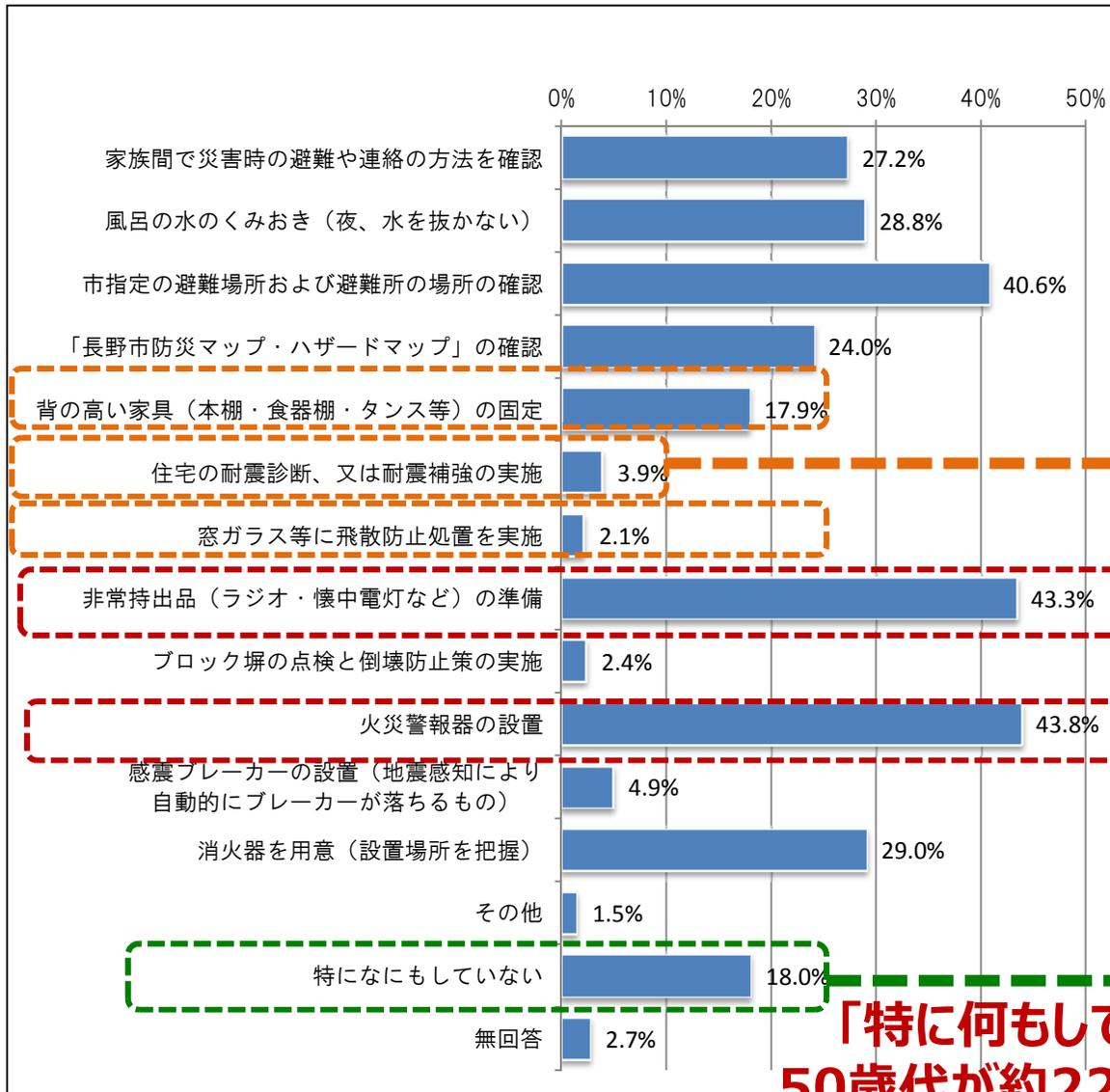


4. 住まいの安心・安全

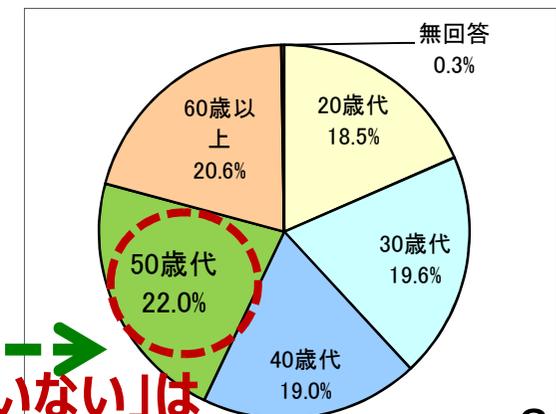
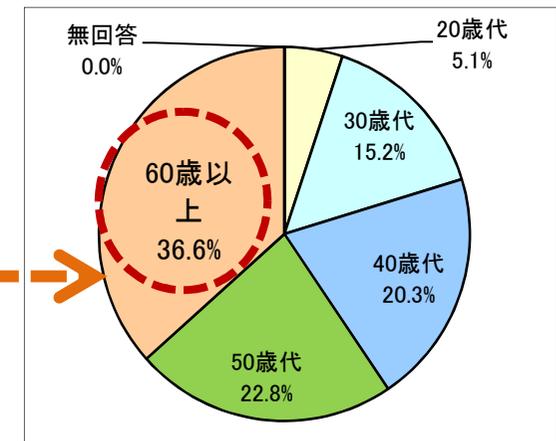
【防災対策】

回答者の約44%が「火災警報器の設置」や「非常持出品の準備」を行っている
住宅に関する防災対策の実施率は低い（耐震診断や家具の固定、ガラス飛散防止等）

住宅に関する防災対策



耐震診断又は耐震補強の実施は60歳以上が約37%と最も多い

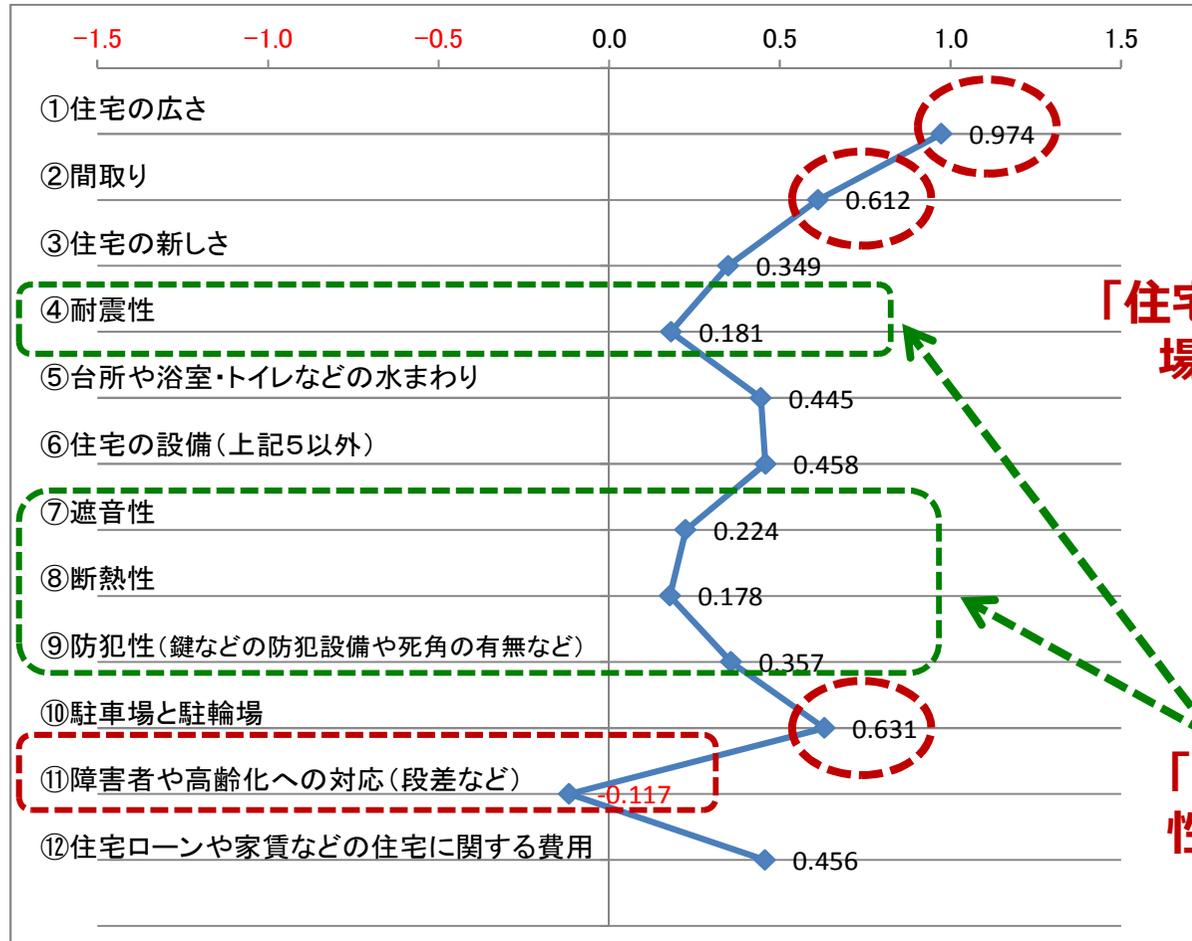


「特になにもしていない」は50歳代が約22%と最も多い

5. 住まいや住環境の評価

【住まいの評価】

12項目のうち、唯一「障害者や高齢化への対応（段差など）」がマイナス評価となっている



「住宅の広さ」や「間取り」、「駐車場と駐輪場」は評価が高い

「耐震性」、「遮音性」、「断熱性」、「防犯性」は評価が低い

※項目毎に「満足」は+2点、「やや満足」は+1点、「やや不満」は-1点、「不満」は-2点で集計

5. 住まいや住環境の評価

【住まいの評価】

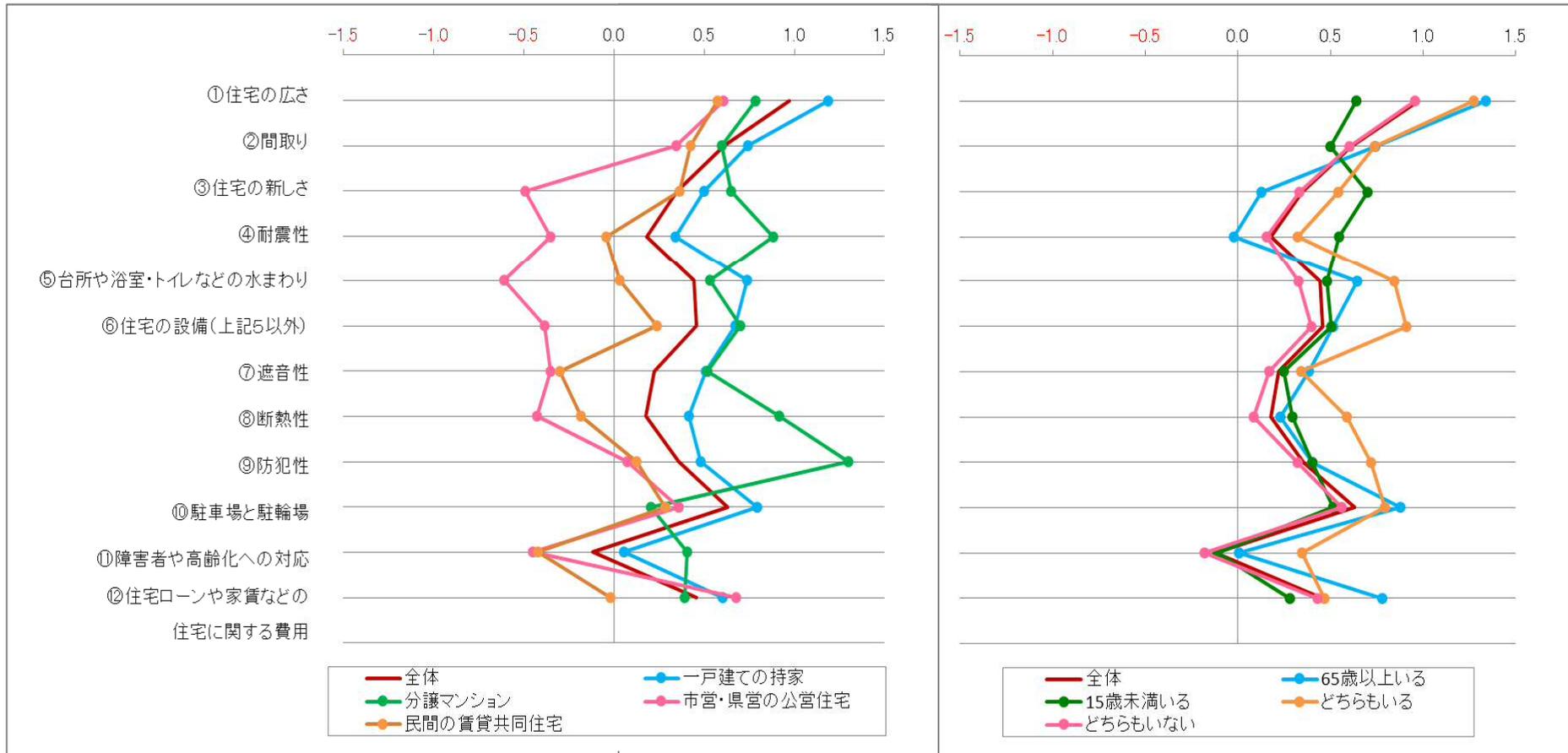
公営住宅や民間の賃貸共同住宅では住宅自体に対する評価が低い

65歳以上の高齢者がいる世帯では住宅の新しさや耐震性について評価が低い

15歳未満の子どもがいる世帯では住宅の広さや住宅に関する費用が他の世帯より評価が低い

住宅種別の住宅の評価

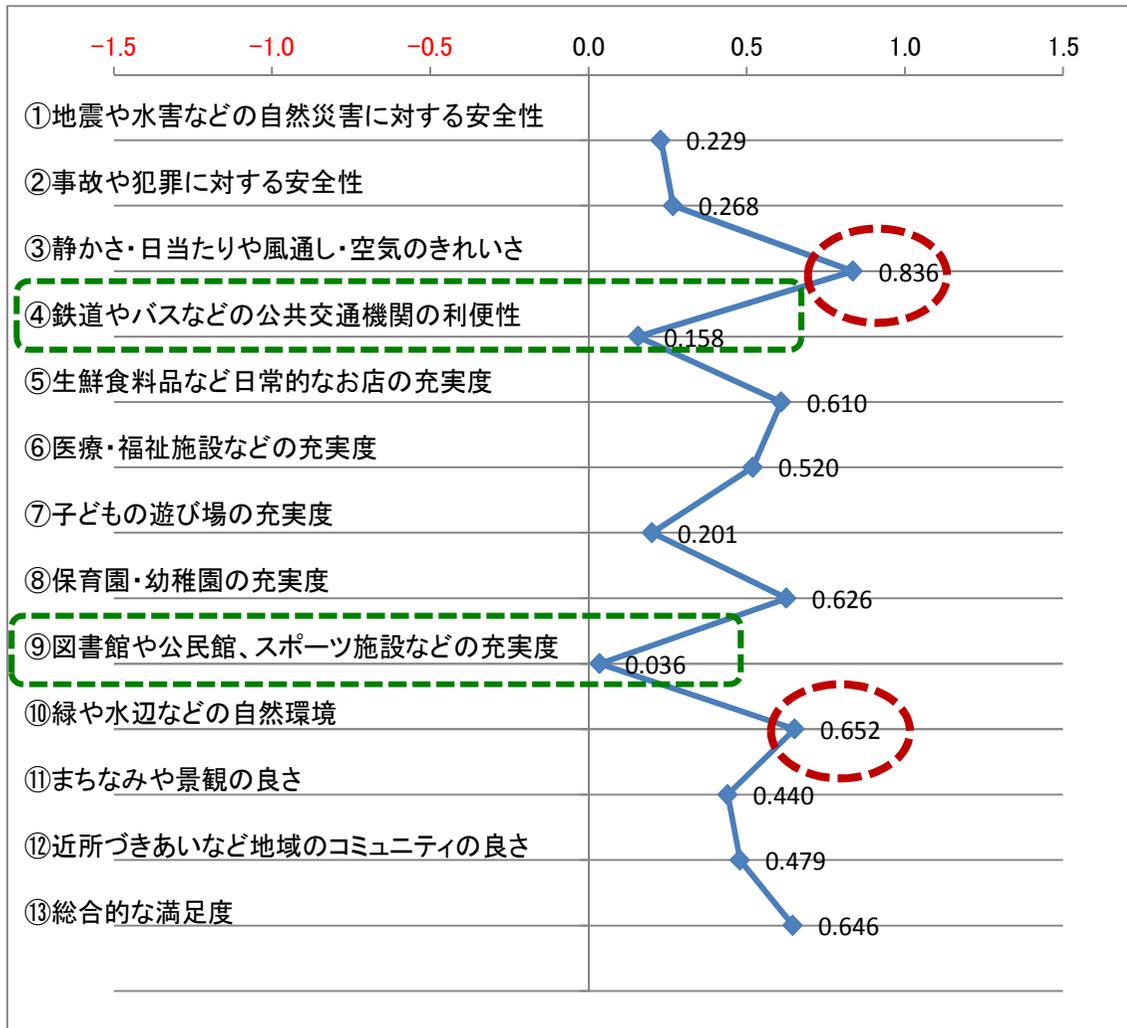
家族員別の住宅の評価



5. 住まいや住環境の評価

【住環境の評価】

13項目のうち、「図書館や公民館、スポーツ施設などの充実度」が低くなっている



「静かさ・日当たりや風通し・空気のきれいさ」や「緑や水辺などの自然環境」など、周辺の高評価

「鉄道やバスなどの公共交通機関の利便性」や「図書館や公民館、スポーツ施設などの充実」に対する低評価

※項目毎に「満足」は+2点、「やや満足」は+1点、「やや不満」は-1点、「不満」は-2点で集計

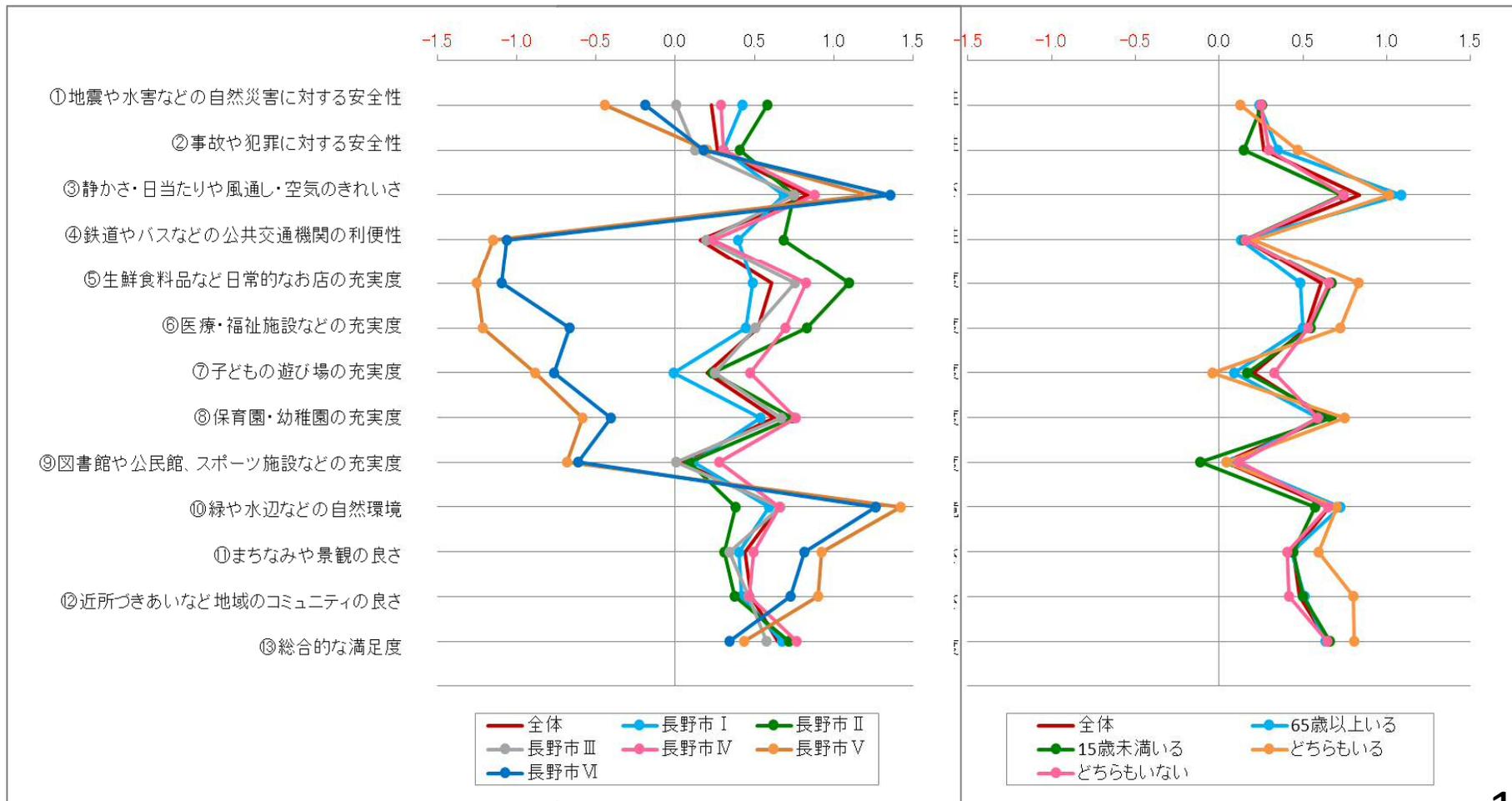
5. 住まいや住環境の評価

【住環境の評価】

長野市V、長野市VIでは、自然環境や景観、地域コミュニティの評価が高い
 そのほかの地域は、施設などの充実、利便性に関する項目の評価が高い
 15歳未満の子どもがいる世帯は防犯性や公共施設の充実度が他の世帯に比べて評価が低い

地域別の住環境の評価

家族員別の住環境の評価

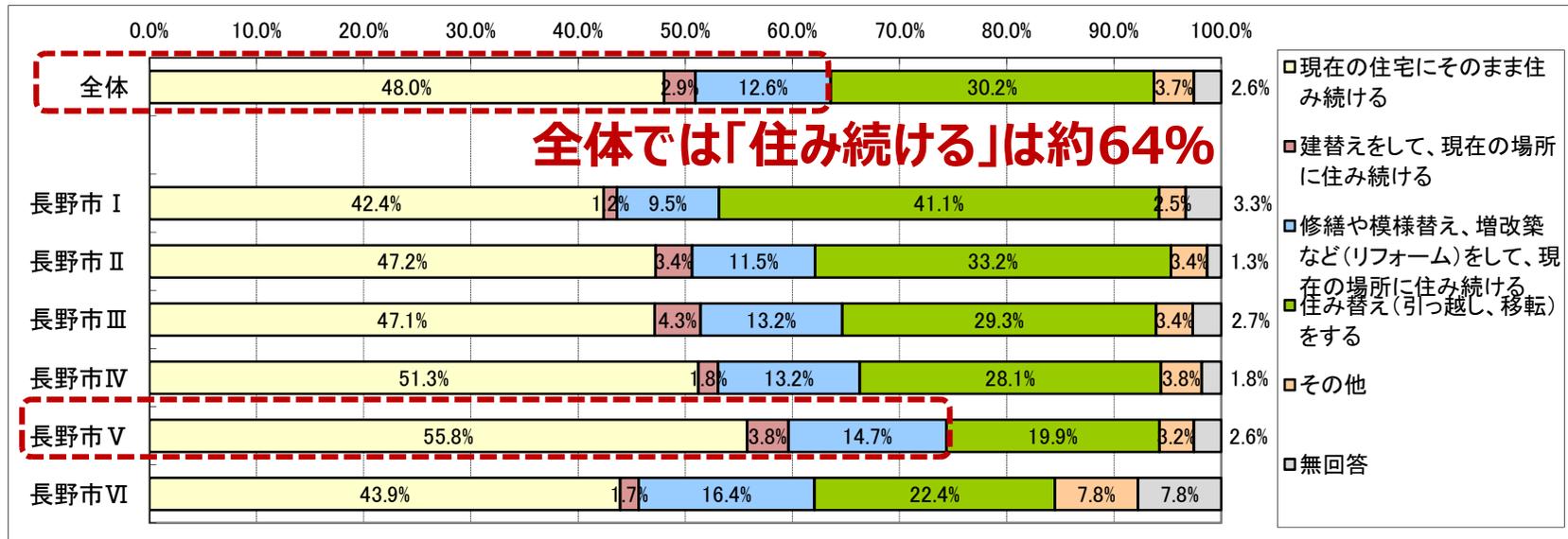


6. 今後の住まい

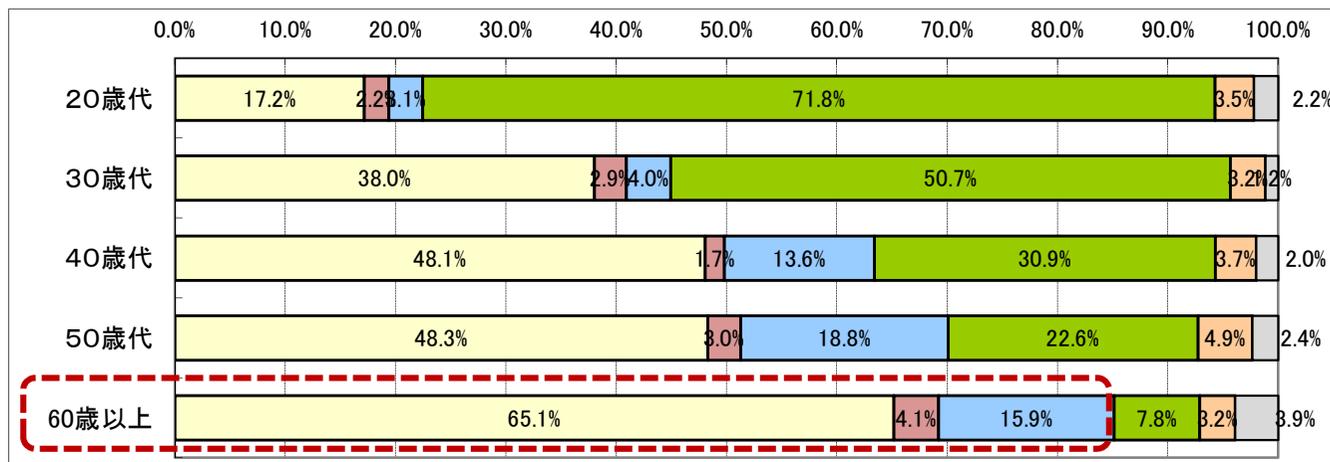
【居住継続の意向】

現在の場所に住み続ける方は約64%、長野市Vでは約74%
年代が上がるにつれ、現在地への定住意向が高い、60歳以上で約85%

地域別



回答者の年代別

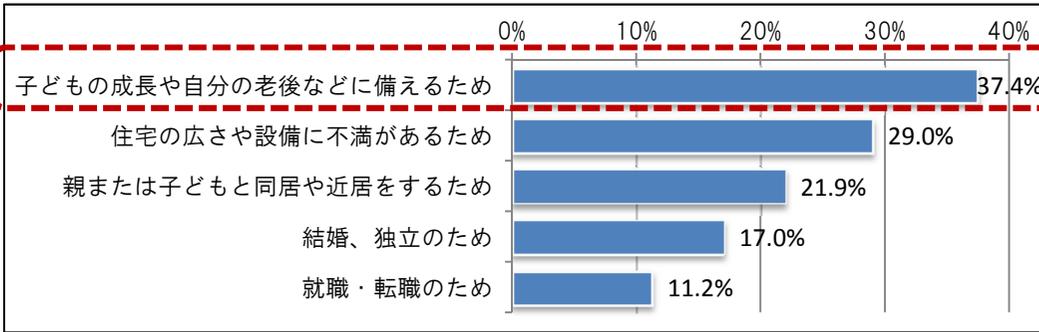


6. 今後の住まい

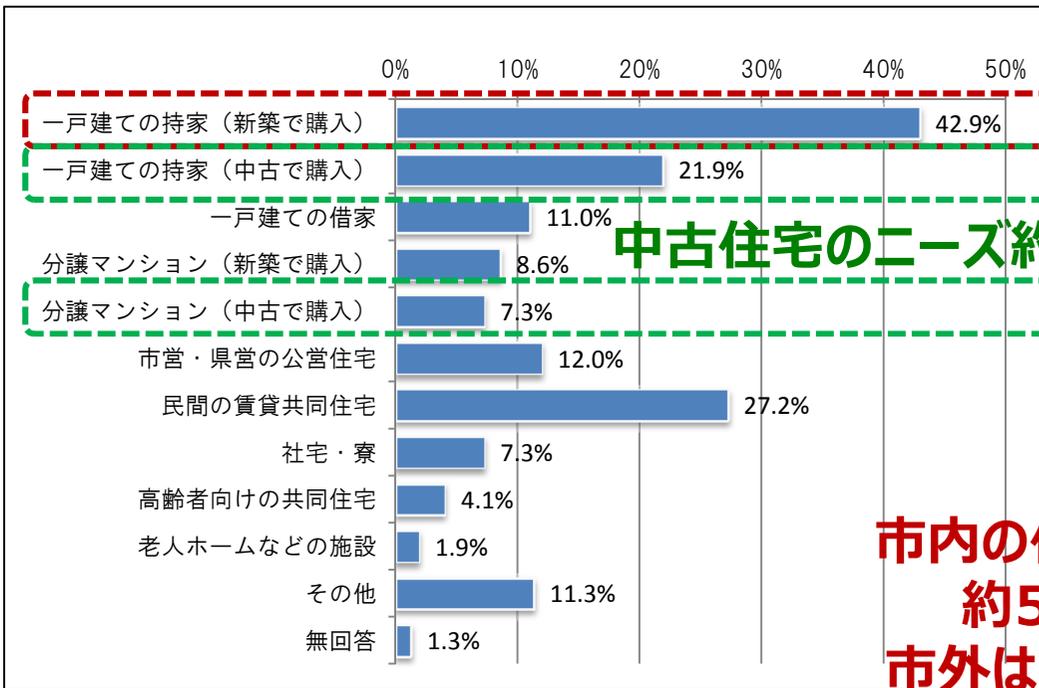
【住み替えの意向】

ライフステージの変化に伴う住み替え理由が約37%と最も多い
 住み替えたい住宅は、一戸建ての持家（新築で購入）が約43%と最も多い
 中古住宅への住み替え意向も約29%ある
 住み替えにあたり「資金の調達と支払い能力」に不安を感じている方が多い

住み替え理由の上位

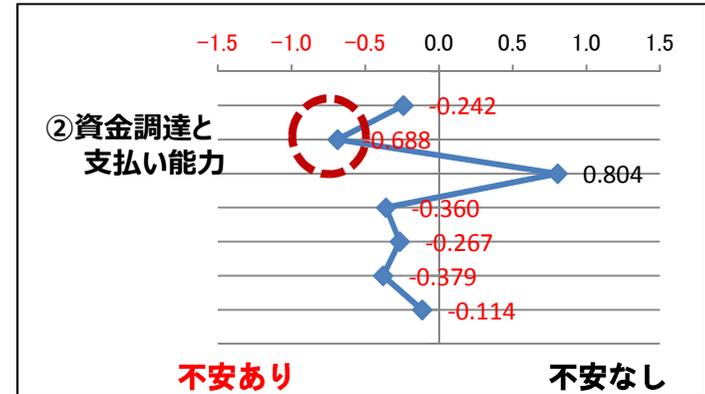


住み替えたい住宅

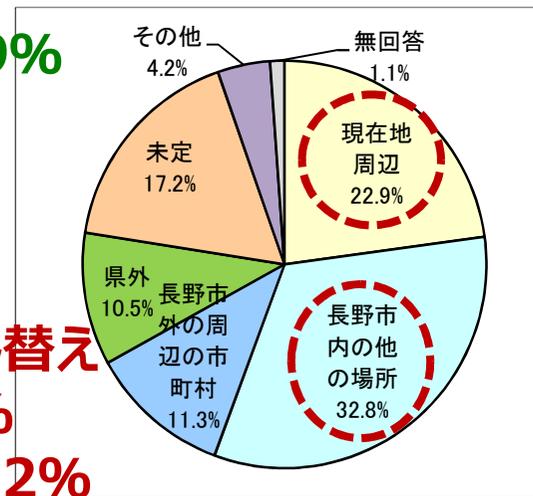


中古住宅のニーズ約29%

市内の住み替え
約56%
市外は約22%



資金調達と支払い能力
について不安を感じている



7. 高齢者・障害者への対応

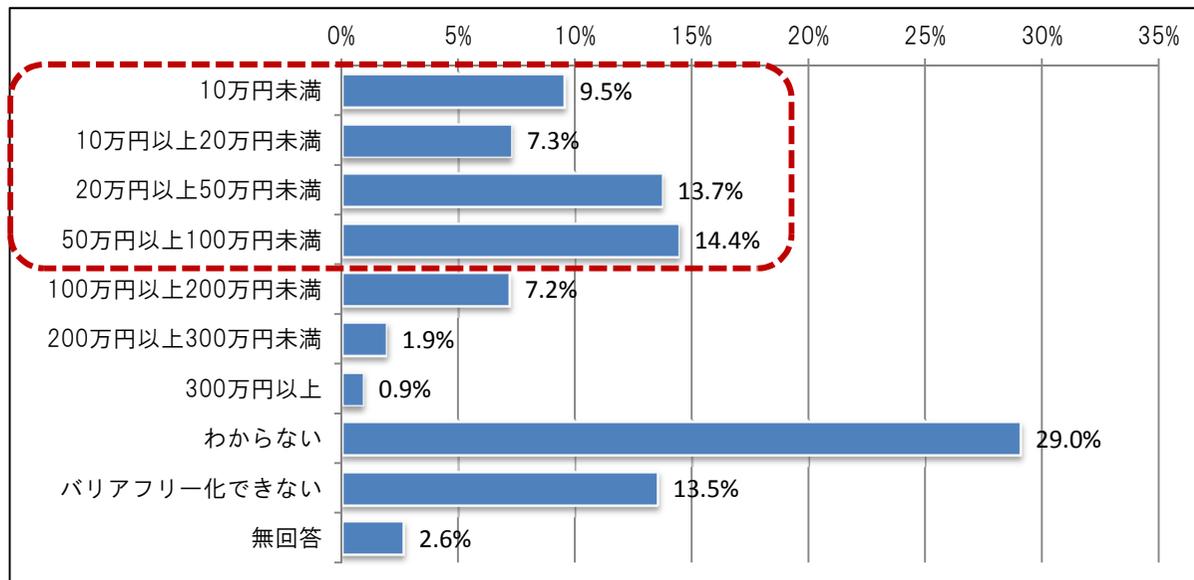
【バリアフリー化の有無】

バリアフリー化された住宅に居住する割合は約27%
 年代が上がるほど、バリアフリー化実施率が高い
 玄関、階段等への手すりの設置は、一部実施を含め約80%
 バリアフリー改修を行う場合の費用負担は100万円未満が約45%

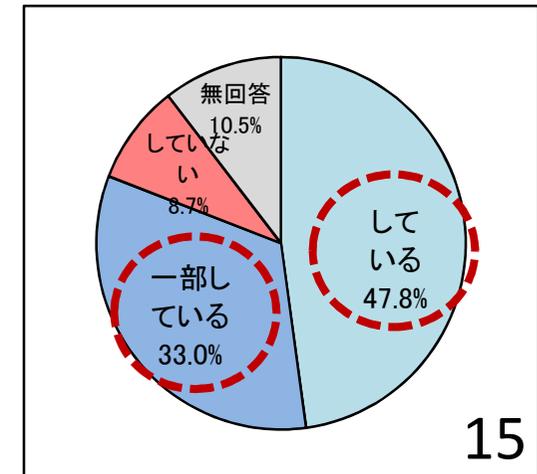
回答者の年代別



バリアフリー化費用負担



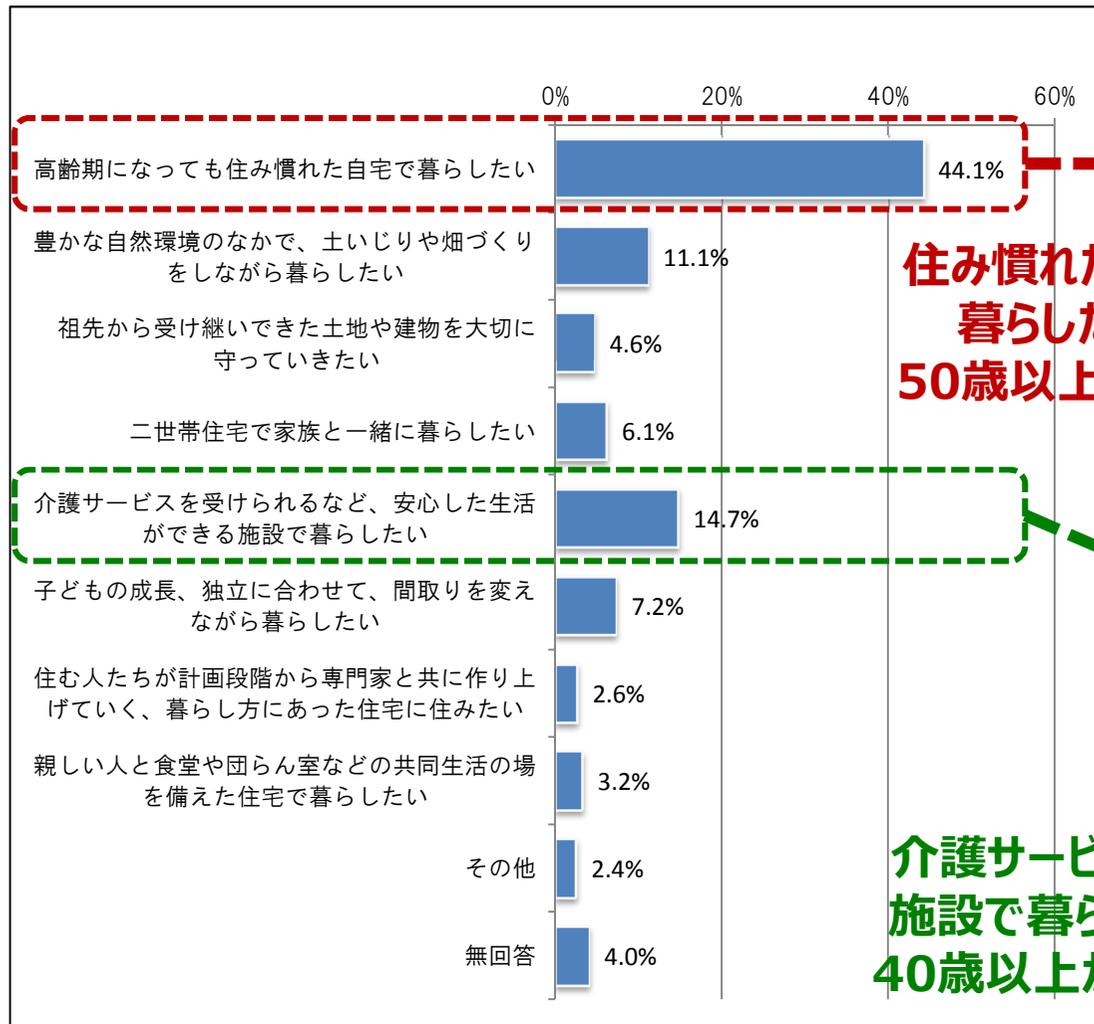
玄関、階段、廊下、トイレ浴室等への手すりの設置



7. 高齢者・障害者への対応

【高齢になった時の暮らし方】

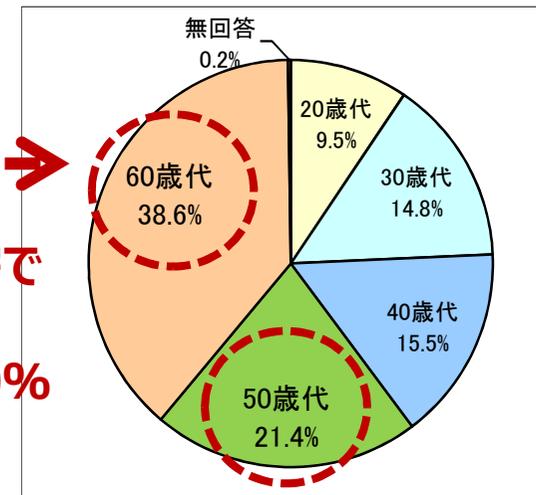
高齢期の暮らし方は「住み慣れた自宅で暮らしたい」が最も多い
 介護サービスを受けられるなど、安心した生活ができる施設の意向も多い



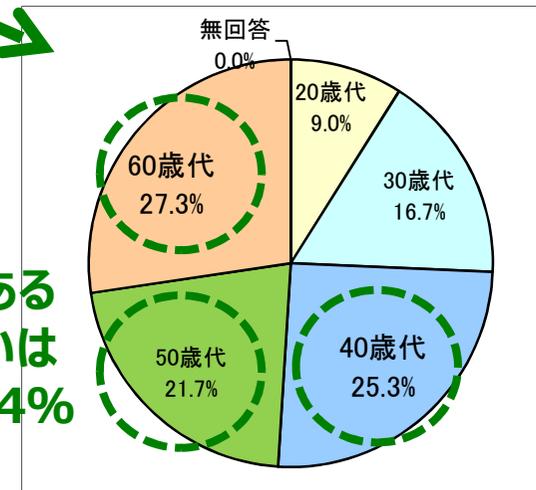
住み慣れた自宅で暮らしたいは50歳以上が60%

介護サービスのある施設で暮らしたいは40歳以上が約74%

回答者の年代別



回答者の年代別



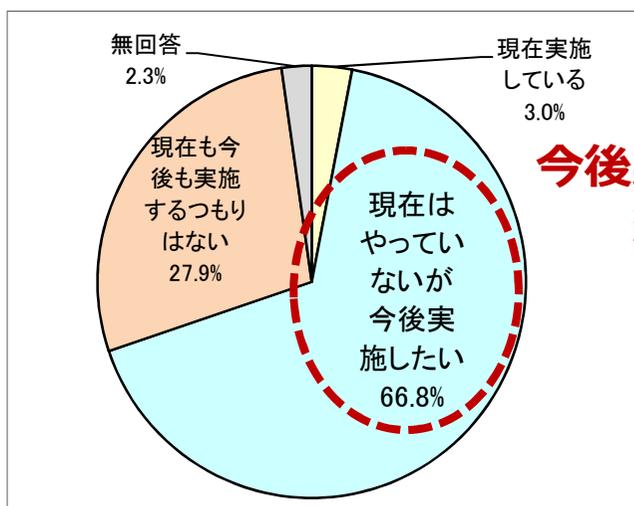
8. 環境に配慮した住まい方

【環境に配慮した住まいの取組】

省エネ住宅や太陽光発電などの自然エネルギーの利用、省エネ住宅への建替えの実施率は低い

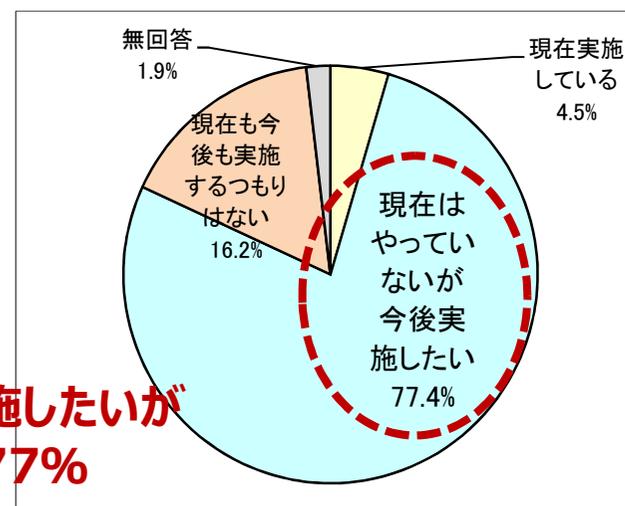
選 択 肢	現在実施している	現在はやっていないが今後実施したい	現在も今後も実施するつもりはない	無回答
①日常生活における省エネルギーの取組の実践	40.30%	40.10%	12.60%	7.00%
②太陽光発電などの自然エネルギーの利用	12.40%	38.80%	42.60%	6.20%
③二重サッシやペアガラスによる断熱性の向上	45.40%	32.70%	16.80%	5.10%
④庭木を植えたりや緑のカーテンを育てる	41.20%	32.90%	20.10%	5.80%
⑤雨水の利用や雨水浸透ますの設置	10.40%	38.60%	44.60%	6.40%
⑥エネルギー消費の少ない製品への買換え (高効率給湯器や省エネ家電(エアコン、冷蔵庫など))	32.50%	51.10%	10.90%	5.50%
⑦省エネ住宅への建替えや新規購入 (高断熱・高気密等で省エネルギー性能の向上を図る住宅)	13.30%	32.20%	47.70%	6.80%

住み替えたい住宅が一戸建て持家の回答者の
②太陽光発電などの自然エネルギーの利用



今後実施したいが
約67%

住み替えたい住宅が一戸建て持家の回答者の
⑦省エネ住宅への建替えや新規購入



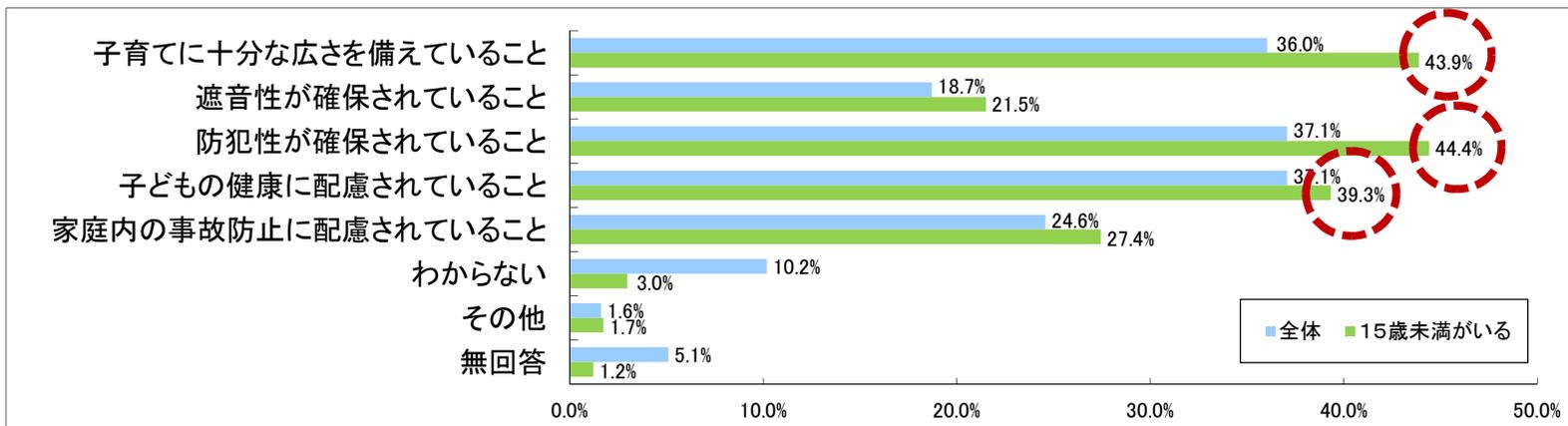
今後実施したいが
約77%

9. 子育てしやすい住まい・住環境

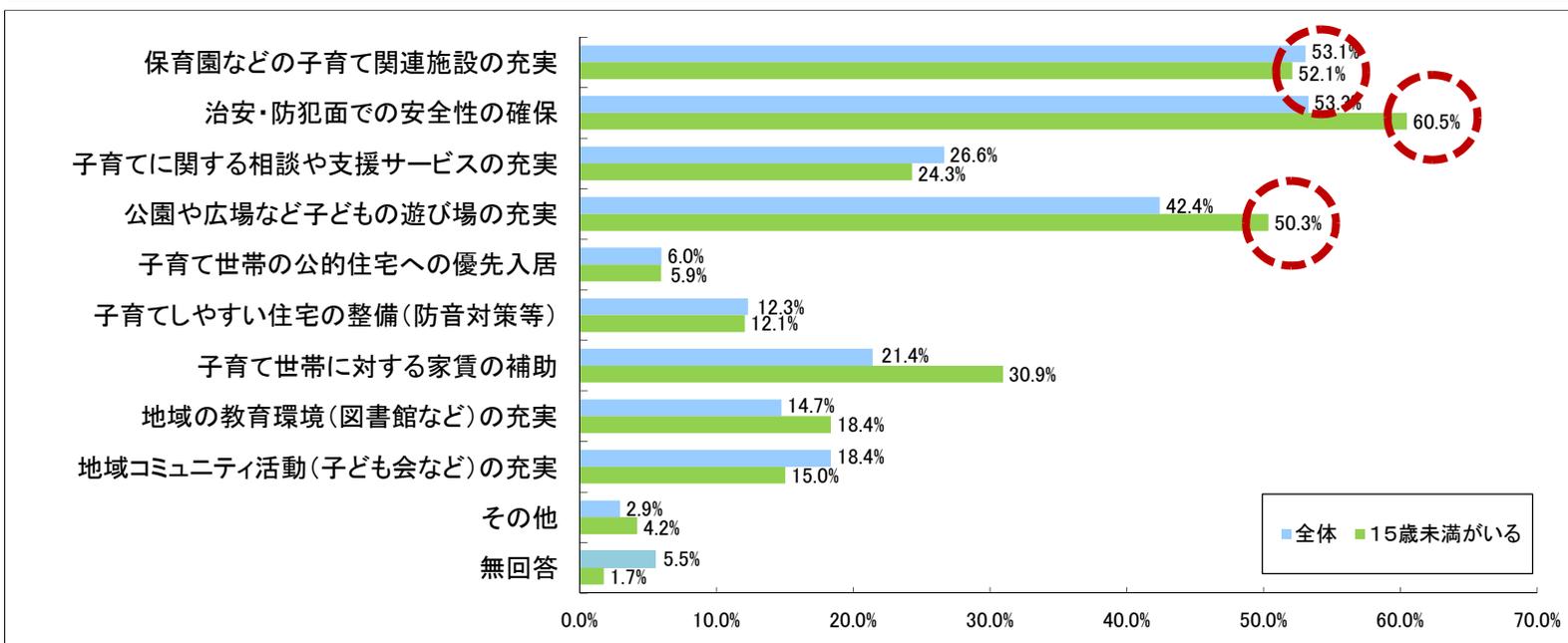
【子育てしやすい住宅】

子育てしやすい住宅には「防犯性の確保」「子どもの健康への配慮」「十分な広さ」が必要
 子育てしやすいまちには「子育て関連施設の充実」「治安・防犯面での安全性の確保」
 「子どもの遊び場の充実」が必要

子育てしやすい住宅



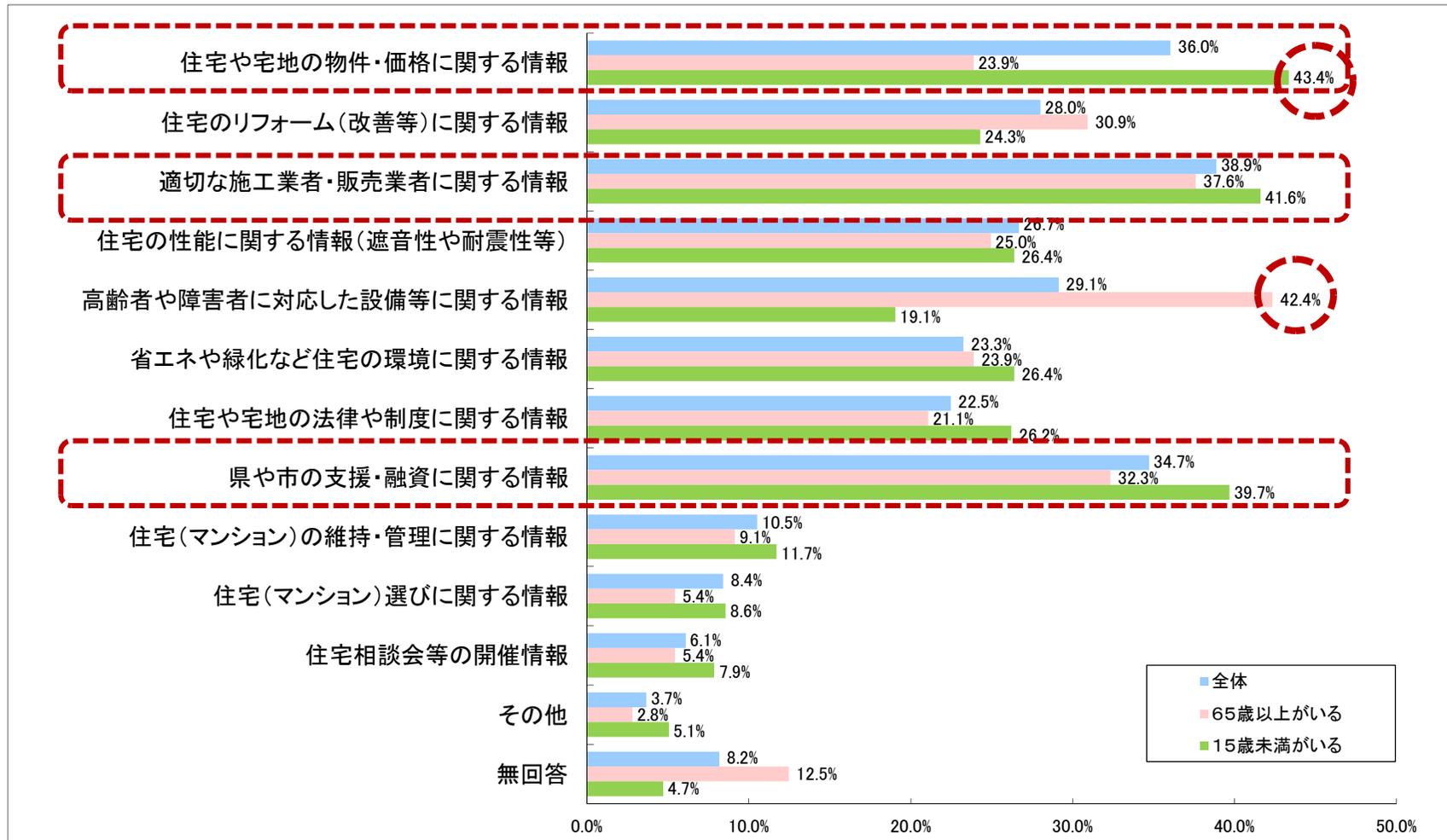
子育てしやすいまち



10. 住宅に関する情報

【住宅に関する情報】

「住宅や宅地の物件・価格に関する情報」「適切な施工業者・販売業者に関する情報」
 「県や市の支援・融資に関する情報」の関心が高い
 高齢者のいる世帯は「高齢者や障害者に対応した設備等に関する情報」の関心が高い
 子育て世帯は「住宅や宅地の物件・価格に関する情報」の関心が高い



11. 自宅の利活用や周辺の空き家など

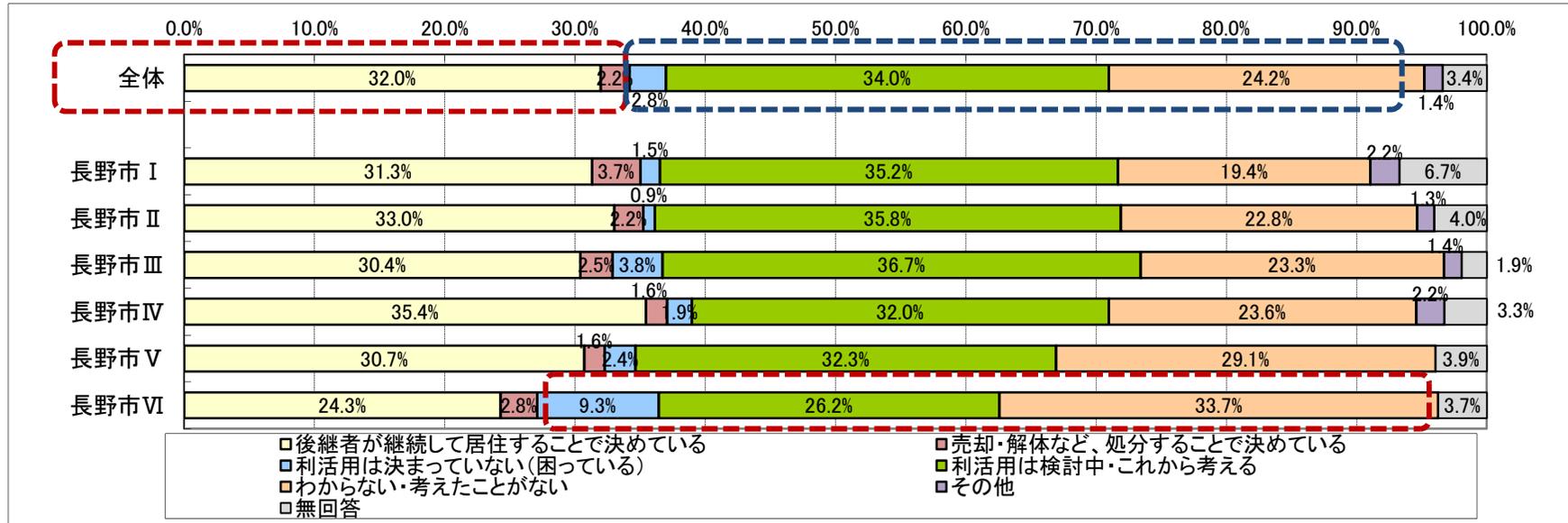
【自宅（持家）の継承】

利活用を決めている住宅は約34%、利活用が決まっていない住宅は約61%

長野市VIでは、今後の利活用が決まっていない住宅は約69%

自宅の利活用に困っている人は、50歳代、60歳以上の世帯に多い

地域別



世帯主の年代別



11. 自宅の利活用や周辺の空き家など

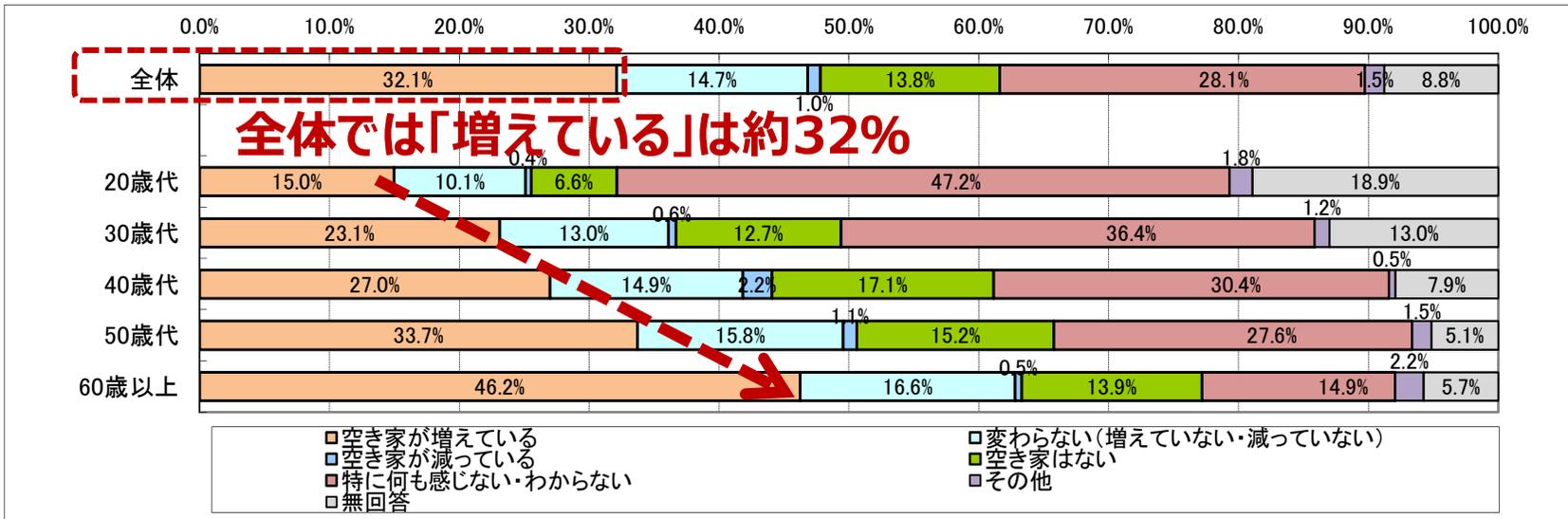
【空き家に関する意識】

空き家が増えていると感じている方は年代が上がるほど増加

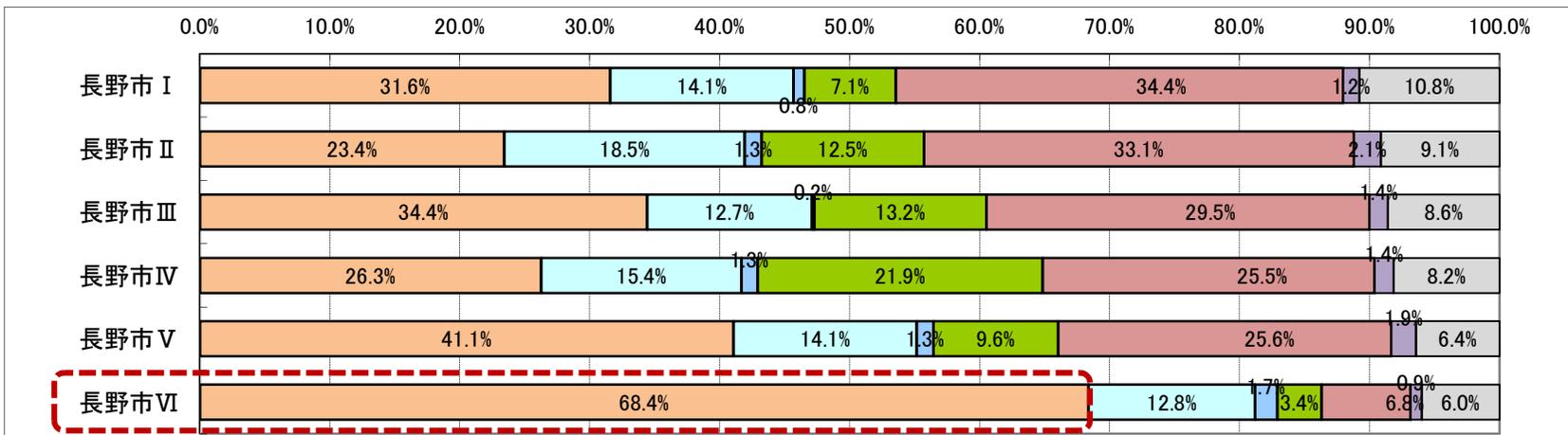
年代によって空き家に対する意識が異なる

長野市VIでは空き家が増えていると感じる方が、約68%と最も高い

回答者の年代別



地域別



12. 今後の住宅施策

【市に求める住宅施策】

市に期待する住宅施策は「災害に強い住まいの普及や防災対策」が最も多い

